

彼方「かなた」

校長通信
H29.11.27
Vol.21

【学力向上に向けて】

白山中の研修テーマ「自ら、共に学ぶ生徒の育成」
主体的・対話的で深い学びの実践を通して」



先週の金曜日に「学力向上交流会」という東葛管内の児童生徒の学力について考える研修会に参加してきました。東葛管内の小中学校の研究主任の先生方を中心に、各校の「学力向上」を推進する先生方が一堂に会し、「どうしたら児童生徒の学力向上につながるのか」というテーマで、各学校の実践について話し合いました。先生方も熱心にアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）をしていました。

そこで、改めて本校の「学力向上」について振り返ってみたいと思います。

先月の十月十三日（金）に第二回校内授業研究会を行いました。三年一組で英語（慶田嵩先生）、二年二組で社会（君島先生）、一年一組で英語（五島先生）、一年二組で数学（松下先生）、ひまわり学級で作業学習（鶴田先生）の四教科、五学級で研究授業を展開しました。どの教室も大変落ち着いた授業態度で、来校されたそれぞれの指導主事の先生方からも大いに評価していただきました。

本校の研究主題の中に、「自ら」という姿と「共に」という姿は、学校教育目標の「みがき合い、支え合う」姿です。そしてそれは、新しい学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」につながっています。今までは、知識や技術を身に付けることに重きが置かれていた感がありますが、これから必要な「学力」は、その「知識や技能」に加え、「思考し、表現する力」や「コミュニケーション力」、そして「意欲・関心を高め一歩踏み出す力」が大切なのです。テストの点数のように目に見える基礎的な「知識・技術」の獲得は、一人で学ぼうとする「意欲」が身に付けば、後からでも十分に伸びます。授業中にペアやグループでの活動を積極的に取り入れるいろいろな考えを共有したり、わからない時に「教えて！」と言えたり、相手がわかるまで説明したりすることが、「学びに向かう力」になり、主体性や思考力、判断力につながってくるのです。

五月に全校で授業アンケートを実施しました。その後、八月に先生方に一学期の授業の振り返りを行いました。その結果、「授業ルール」と「対話的な学び」（質問する、説明する、考えを共有する等）に課題があることがわかりました。それを解決するために「授業ルール」を学習委員会で確認したり、「学習課題」を明確にしたり、「学習形態」を工夫したりして、「学び合うこ



と」を授業に組み込むことで、学力向上のための授業改善に取り組んでいます。

一学期に比べ「今までわからなかったけどわかるようになった。」とか、「今まではあまり質問できなかったけど少しできるようになってきた。」というような実感が伴う声も聞こえてくるようになりました。グループでの活動も随分定着してきている教科が増えてきました。進路実現が目前に迫っていることもあり、三年生の教室がとて前向きになり、学習面でも全校をリードしているのを感じます。本当に頼もしく思います。

学校は、人との関わり、「誰かのために自分で考え、行動し、助け合って生きること」を勉強する場所です。教育は、「仲良く助け合って生きること」を教えることです。勉強は、教科や道徳、諸行事、委員会活動、部活動を通して、「知識や技能を習得し、活用し、行動に移すこと」を学ぶことです。このことを心に留め、先生方だけが授業を改善するのでなく、学校中みんな、力を合わせて「学力向上」に取り組んでいきたいと思えます。

わからないことがわかるようになったり、できなかったことができるようになったりする経験は、私たちがワクワクさせ、楽しさを感じさせてくれるのです。本来、勉強とは、このように楽しくワクワクするものであり、嫌々やらされるものではありません。でも実際には、わからないままになってしまいがち、結果、やる気が出なくなることも少なくありません。そんな時こそ、「みがき合い・学び合う」関係が必要なのです！意識していきましょ！